

知っていますか？「合理的配慮」^{ごうりてきはいりょ} ～ 障害者差別解消法が変わります

平成28年4月1日からスタートした障害者差別解消法ですが、この中で、行政機関等や事業者に対し、障がい者を理由とする「不当な差別的扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」が定められています。

事業者に対して、これまで「合理的配慮の提供」は努力義務でしたが、2024年4月1からは、**法的義務**となります。

これまでは・・・

社会的障壁の除去の実施について、
必要かつ合理的な配慮をするよう **努めなければなら**
ない。

4月1日から・・・

社会的障壁の除去の実施について、
必要かつ合理的な配慮を **しなければなら**
ない。

【必要な対応の具体例】 たとえば・・・

障がい者から、ある試験を受ける際に筆記が
困難なため、デジタル機器の使用を求める申
出があったら・・・

前例がないことを理由に一律な対応をするの
ではなく、障がい者と対話したうえで、他の
受験者との不公平が生じないように、事業者側
でインターネットに接続できないパソコンを
用意して対応するなどが必要。

合理的配慮の提供とは・・・

障がいのある人は、社会の中にある障壁によって生活しづらい場合があります。この法律では、役場や事業者に対して、障がいのある人から、社会のバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。

「共生社会」の実現のために

詳細はこちら⇒



障がいのあるなしにかかわらず、すべての命は同じように大切であり、かけがえのないものです。ひとりひとりの命の重さは、障がいのあるなしによって、少しも変わることはありません。このような「当たり前」の価値観を、改めて、社会全体で共有していくことが何よりも大切です。

震災～私たちにできること～



1月1日、能登半島を中心に広い地域を激しい地震が襲いました。多くの方が犠牲となり、日常の暮らしが奪われました。大規模災害からの「復興」はこれから長い時間と努力が必要となるでしょう。被災地から遠く離れ、メディアを通じてのみ情報を手に入れる事しかできない私たちは、被災者の声に真摯に耳を傾け、思いを巡らし、その情報を主体的に正しく読み解かねばなりません。

私たちもいつ災害に見舞われるかわかりません。避難生活の中でも、女性、障がい者、高齢者、子どもたちをはじめ、すべての人たちの人権が守られ、安心して過ごしていけるよう、何ができるか日頃から考えておく必要があります。

インターネットによる人権問題について

日出町立日出中学校 一年 工藤 優利亜

私は、この頃インターネットでの誹謗中傷に関する話を聞きます。インターネットでは、好きなことを、好きな時に、好きなように、自分の気持ちや情報、映像や画像を世界中に発信することができます。しかし、他人の嫌がる映像を好きな時に、好きなように、自分勝手に世界中に発信することもできます。だから、他者がどう思うか、どのように傷つくか考えずに情報を発信すると、それを見た人だけでなく、その友だちや家族など多くの人を傷つけることにもなります。

私は、なぜ人が傷つくような内容の情報を発信するのか。見た人が楽しく明るくなるようなものを見てもらいたいと発信者は考えないのかと疑問に思いました。私は自分から情報を発信したことはありませんが、他者が傷つく情報を目にすることはあります。そのようなことを書いた人の気持ちを考えたら、何かわかるかもしれないと思いますが、そこには様々な背景がありそうで、なかなか理解することはできませんでした。

もし、私が情報を発信するときに来たら、見る人の気持ちになって考えて発信しようと思います。そのためには、インターネット上の誹謗中傷についての現実や、その対策について理解し、正しい判断や行動ができることが大切だと考えます。情報の発信者とその受け手が楽しく利用できるようになってほしいです。

そして、インターネットが持つメリットが社会の中で最大限生かされ、デメリットが最小限になるように心がけて利用し、インターネット上における誹謗中傷などの人権問題をなくしていきましょう。

障がい者の方が安心して暮らせるように

日出町立藤原小学校 五年 吉田 瑞紀

私は、今まで障がい者の方をみかけると、「かわいそう」や「つらそう」という気持ちになることが多くありました。私の周りでも、買物に行った時などに、障がい者の方を見かけることがよくあります。けれど、声をかけづらくて、手助けがあまりできませんでした。

先日、学校の授業で、右手、右足、左手、左足が使えない人のための「アンプティーサッカー」というのを学ぶ機会がありました。つえの「クラッチ」やアンプティーサッカーのルールについて障がい者の方が教えてくれました。実際にやってみると、つえのあつかいが難しく、競技中はバランスがうまく取れませんでした。

「こんな難しいことをするんだ」という驚きとともに、障がい者の方がスポーツを楽しんでいることを知り、感動しました。今まで勝手に、障がい者の方は、つらいことや悲しいことが多いと思っていたのですが、スポーツを楽しみ、生き生きと活動されていることを知りました。

この経験を通じて、障がい者の方を身近に感じることができました。これから、私も障がい者の方の役に立てるように、見かけたら優しく声をかけて、必要であれば手助けできるようにになりたいです。そして、障がい者の方をふくめてみんなが、もっと楽しいという気持ちやうれしいという気持ちを持てるように、自分のできることを考えていきたいと思っています。

